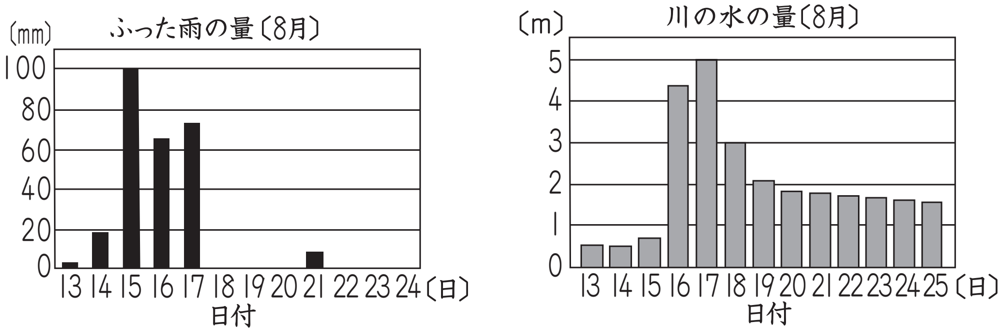
第13講 • 流れる水の量と水のはたらき

1　川の水の量の変化 ➡❶

川の水の量は，雨の量などによって決まる。雨の量が多いときは，川の水の量がふえ，雨の量が少ないときは，川の水の量が少なくなる。また，台風などで大雨がふり，川の水の量がふえることもある。

❶ふった雨の量と川の水の量の変化



2　川の水の量と流れる水のはたらき

(1)　川の水の量がふえたときの水のはたらき

①川の水の流れが速くなる。

②川底や川岸をけずるはたらき（しん食）が大きくなり，川の深さが深くなったり，川はばが広くなったりする。

③土や石などを運ぶはたらき（運ぱん）が大きくなり，たくさんの土や石をおし流す。このため，川の水はにごる。

(2)　水の量がふえたときの川のようす　川の水の量がふえると流れが速くなり，川岸がけずられて，てい防がこわされたり，けずられた土が積もったりして，土地のようすが変わることがある。

©RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

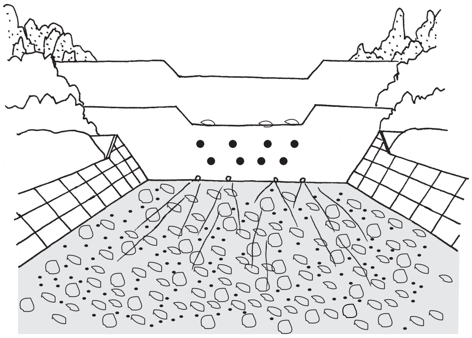
資料（しりょう）　災害を防ぐくふう ➡❷

日本の川の多くはかたむきが急で，流れが速いため，こう水などの災害が起こることがある。このような災害を防ぐために，いろいろなくふうがされている。

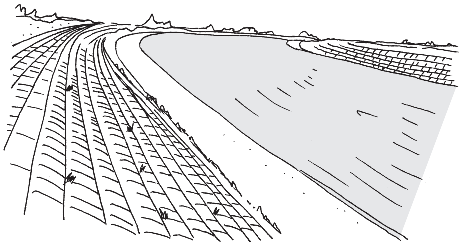
- **さ防ダム**　川底がけずられたり，けずられた土や石がいちどに流されたりするのを防いでいる。
- **てい防**　川の両岸を土や石などでもり上げ，水があふれるのを防いでいる。
  近年は，自然の石を使ったり，コンクリートの上に土をかぶせたりしたてい防がつくられており，生き物をすみやすくしたり，見ばえをよくしたりしている。
- **ごがんブロック**　川岸がけずられるのを防ぐ。
- **ダム**　川の上流にダムをつくることによって，川の水の量を調節し，こう水を防いでいる。

❷災害を防ぐくふうの例

▶さ防ダム



▶てい防



©RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

第13講 • 確認テスト

・下の文は，川の水の量がふえたときのようすについてのべたものです。

台風などで大雨がふると，川の水の量がふえたり，水の流れが［あ］なったりします。水の流れが［あ］なると，川岸や川底を［い］したり，けずったものを［う］するはたらきが大きくなります。このため，ときには山やがけをくずしたり，川岸がくずれて水があふれたりしてこう水が起こり，大きな災害を引き起こすこともあります。このような災害を防ぐくふうとして，㋓<u>さ防ダム</u>や㋔<u>ごがんブロック</u>などがある。

問１　上の文の［あ］にあてはまるものはどれですか。

①　速く　②　おそく　③　反対に　④　なく

問２　上の文の［い］にあてはまるものはどれですか。

①　しん食　②　運ぱん　③　たい積　④　風化

問３　上の文の［う］にあてはまるものはどれですか。

①　しん食　②　運ぱん　③　たい積　④　風化

問４　上の文の下線部㋓のはたらきとして，あてはまるものはどれですか。

①　川底がけずられたり，けずられた土や石がいちどに流されたりするのを防ぐ。

②　川の両岸を土や石などでもり上げ，水があふれるのを防ぐ。

③　川岸がけずられるのを防ぐ。

④　川の水の量を調節し，こう水を防ぐ。

©RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

問５　前ページの文の下線部㋔のはたらきとして，あてはまるものはどれですか。

①　川底がけずられたり，けずられた土や石がいちどに流されたりするのを防ぐ。

②　川の両岸を土や石などでもり上げ，水があふれるのを防ぐ。

③　川岸がけずられるのを防ぐ。

④　川の水の量を調節し，こう水を防ぐ。

©RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

第13講・確認テスト

問１　①

問２　①

問３　②

問４　①

問５　③

ⒸRECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。